

病理学	1年・後期	1単位 15時間	教授 柳田 浩義
科目カテゴリー	看護の対象の理解	科目ナンバリング	32210291

1. 授業のねらい・概要

学生は、病気の種類や成り立ちを理解したうえで、将来、看護を実践する際に必要となる、疾患を理解し、病状を判断するために必要な知識、判断力を身につけることを目標とする。

2. 学修の到達目標

1. 学生が疾病・病態の種類や、それらの成り立ちの全体像を理解し、説明できる。(D-2)
2. 学生が各種の疾患、病態形成時におこる細胞の変化である肥大・過形成・萎縮・化生・変性・壊死・アポトーシスについて理解し、説明できる。(D-2)
3. 学生が生体防御機構として炎症の各過程、現象を理解し、説明できる。(D-2)
4. 学生が免疫反応を担う細胞や各種因子について理解し、それを元にしてアレルギーを説明できる。(D-2)
5. 学生が体内の正常な循環が破綻したときにおこる浮腫、充血、血栓形成などを理解し、説明できる(D-2)
6. 学生が様々な病原体の種類を理解し、それをもとに感染症の予防、制御の知識を修得する。(D-2)
7. 学生が腫瘍の種類を理解し、腫瘍発生のメカニズムを分子生物学的なレベルで理解できる。(D-2)
8. 学生が遺伝子の異常によっておこる疾患や、環境因子、栄養異常などによっておこる疾患を理解し、説明できる。(D-2)
9. 学生が病理学の知識を元に、疾病の予防や治療、看護について考察したことを述べるができる。(D-2)

3. 授業の進め方

テキストに基づいた講義を中心に進める。また参考資料のプリントの配布も行う。

【アクティブ・ラーニング実施有無】 無

実施無し

【ICT 活用の有無】 有

オンラインメールによる定期試験の答案返却・解説の日程の一斉連絡ならびに補習の個別連絡。

4. 授業計画 (講義)

回	授業内容	授業形態	事前事後学修 (学修課題)	担当
1	第2章 細胞傷害・再生	講義	予習：事前に指定されたテキストの講義範囲を一読する。 復習：テキストの図、表を参照して講義内容を整理して理解する。	柳田 浩義
2	第3章 炎症	講義	予習：事前に指定されたテキストの講義範囲を一読する。 復習：テキストの図、表を参照して講義内容を整理して理解する。	柳田
3	第4章 免疫	講義	予習：事前に指定されたテキストの講義範囲を一読する。 復習：テキストの図、表を参照して講義内容を整理して理解する。	柳田
4	第5章 循環障害	講義	予習：事前に指定されたテキストの講義範囲を一読する。 復習：テキストの図、表を参照して講義内	柳田

			容を整理して理解する。	
5	第7章 感染症	講義	予習：事前に指定されたテキストの講義範囲を一読する。 復習：テキストの図，表を参照して講義内容を整理して理解する。	柳田
6	第9章 腫瘍	講義	予習：事前に指定されたテキストの講義範囲を一読する。 復習：テキストの図，表を参照して講義内容を整理して理解する。	柳田
7	第6章 先天異常・遺伝性疾患 第8章 環境因子・栄養	講義	予習：事前に指定されたテキストの講義範囲を一読する。 復習：テキストの図，表を参照して講義内容を整理して理解する。	柳田
8	まとめと定期試験	講義	予習：これまで学んだ知識を整理しアウトプットできるようにする。 復習：テキストの図，表を参照して講義内容を整理して理解する。	柳田

5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は3分の2以上の出席した者）70%，講義時に適宜提示するレポート30%で総合的に評価する。定期試験の出題範囲は授業で取り扱った内容全てで、試験問題の点数は授業時間に比例して配点する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：深山正久 編（2022）：はじめの一步の病理学 第2版 羊土社

7. 準備学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な内容

授業前に必ず教科書の予定範囲を一読する。この予習・復習には、それぞれ90分程度が必要である。

8. 受講上の留意事項

遅刻，欠席ならびに授業中の私語，許可の無い教室の出入り，授業に関係ない言動は慎むこと。

9. 課題に対するフィードバックの方法

レポートは教員が内容をチェック・採点して返却する。試験の結果と模範解答は後日掲示する。
質問・疑義は授業で、あるいは適宜個別に説明・対応する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目である。修得できない場合進級不可となる。（履修要項・学生便覧参照）

11. 該当する本授業は、以下の実務経験を活かして実施されます。

医師として長年培った臨床経験を活かして講義を行う。